

産業建設常任委員会

● 飛騨河合飛騨牛繁殖センター

飛騨河合飛騨牛繁殖センターは、高齢化により畜産農家の減少や素牛不足が危惧されたため、平成21年に国の事業で完成し、市内の畜産農家で組織する「農事組合法人飛騨かわい牧場」が指定管理している。平成25年には繁殖牛206頭、飼育180頭の子牛を出荷し、全てを市内の肥育農家へ提供し、飛騨牛のブランドを守っている。

建設にあたり畜産公害を危惧した地元住民から反対があったが、乳酸菌飼料を与えることで乳酸菌が悪臭の一つであるアンモニアを生成する有害微生物や病原性微生物の活動を抑え、糞の発酵・分解を促進することでアンモニア臭も低減された。

この乳酸菌入り堆肥は販売しており、農家からは野菜が甘くなるなど好評であるとのこと。

● 猪鹿庁の取り組み

NPPO法人メタセコイアの森の仲間たちの「猪鹿庁」の取り組みは、総勢6名で警視庁をモチーフとして衛生管理課や研究課、山育課、捜査一課、広報課、ジビエ課を設置しており、猟師の6次産業化や今の鳥獣害対策について新しい取り組みを実行し、それを提案していきたいとのこと。

また、この他にも2次産業として、安心安全な肉を提供し料理教室を行いジビエ料理の普及を目指し、3次産業として山歩きツアーや解体ショーなどを行いファンを増やしていくとのこと。



※ジビエ=狩猟によって、食材として捕獲された野生の鳥獣。

今後のまちづくりや議会運営に生かします。

議会活性化委員会

● 行政評価システム

合志市は、平成18年の合併と同時に行政評価システムを導入しており、総合計画との連動を図るとしています。

評価としては、「施策評価」と「事務事業評価」を行っており、評価については、部・課長級による内部評価を行った後、政策推進本部での二次評価と併せて、市議会および市民による総合政策審議会での外部評価を行います。

事務事業評価については、担当者が行う内部評価になります。



● 議会による事務事業評価の取り組み

大分市議会は、各分科会(常任委員会)で3事務事業を選定し、6月定例会で執行部に通知します。

9月定例会で執行部からの評価シート提出および説明を受け、評価改善提案などまでの議論を行い、分科会の合意形成を図ります。評価結果は決算審査特別委員会委員長報告に含め報告します。それを受けて、執行部は改善などを検討し、対応状況および予算編成への反映などを議会に報告します。

これらを検証しながら翌年の事務事業に反映をしていくという流れです。また、市では外部評価委員会での外部評価も行っています。

総務常任委員会

●行政評価制度

札幌市は、平成11年度に事業評価システムを取り入れましたが、現在の形である施策評価と行政評価委員会を導入したのは平成17年度からで、その位置付けは次のとおりです。

① 施策・事業の定期的な診断ツール
② 自己評価・検討課題の提起と予算反映のための自己改善ツール
③ 市民への情報提供ツール

外部評価は、内部評価に客観性や透明性を確保することを目的に、学識経験者や専門家などで構成される「行政評価委員会」と、評価内容に市民の目線や感覚を反映するための「市民参加の取り組み」の二つの視点から行われています。

市民参加の取り組みはワークショップ形式を採用しており、今後も実施手法などを検討しながら継続するそうです。

●移住促進事業

小樽市では、団塊世代などの第2の故郷探しの動きを踏まえ、情報発信と相談体制の整備などに取り組み、大都市圏などからの移住および長期滞在の促進など、人口対策の一環として事業を推進しています。

ワンストップ相談窓口の開設やホームページによる情報発信、調査・研究および実践事業を行うことを目的に設立した「おたる移住・交流促進事業研究会」の活動について研修しました。

今後は、起業希望者や現役世代の誘致に向けたPRを充実させたいとのことでした。



REPORT 視察研修

厚生文教常任委員会

●学力向上の取り組み

秋田市は、公立の小・中学校を対象とした全国学力テストでは毎年トップクラスの成績で、次の4点が主な取り組みです。

① 小・中一貫した考えに立った教育の充実
② 学校訪問（計画訪問・要請訪問）での指導
③ 教職員研修
④ 学力調査などの活用

系統的、発展的な指導計画のもと、発達の段階に応じたきめ細かな学習指導や生徒指導、生き方指導などについて、小・中学校が連携して教育活動を推進していくことが大切であり、成果として小学生が中学校の学習や生活を体験的に学ぶことができ、中1ギャップの解消ができたことや、授業力向上の視点から目指すべき方向と課題を明らかにすることができたということです。

システム、発展的な指導計画のもと、発達の段階に応じたきめ細かな学習指導や生徒指導、生き方指導などについて、小・中学校が連携して教育活動を推進していくことが大切であり、成果として小学生が中学校の学習や生活を体験的に学ぶことができ、中1ギャップの解消ができたことや、授業力向上の視点から目指すべき方向と課題を明らかにすることができたということです。

●がん検診受診率向上の取り組み

酒田市は、平成16年度より市民健康講座や地区がん予防教室、市報、地元FMラジオでの受診勧奨を行い、また、検診案内や申込方法を改善し、徐々にではあるが受診率が向上している。

働いている方が出勤前などに短時間で受診できる早朝クイック検診の実施や、子育て中の女性のために託児サービスを設け、受診しやすい環境整備も図っている。

今後も、がんの早期発見・早期治療や食生活の改善、医療費の抑制など「健康で元気に暮らせるまちづくり」に取り組むとのことでした。

今後も、がんの早期発見・早期治療や食生活の改善、医療費の抑制など「健康で元気に暮らせるまちづくり」に取り組むとのことでした。

